

○2番（山口 等君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまから2番山口等の一般質問をさせていただきます。

きょうは5名の方が質問に立たれますけど、あと2名ほどおられますので、早速質問に入らせていただきます。

きょうはたくさんの方が応援に来ていただいております。本当ありがとうございます。

今回、4つの質問の項目を予定しております。

まず、最初に被災者支援についてでございます。

死者、行方不明者合わせて約1万9,000人、そして、震災関連死まで含めると約2万人の方が犠牲になりました、あの未曾有の東日本大震災から1年が経過しました。最近のニュース記事を見ても、震災関連のニュースばかりでございます。また、報道特別番組も頻繁に放送されております。中でも瓦れきの受け入れに関することが多く見受けられます。

私自身、昨年5月と10月の2回、ボランティアとして活動をさせていただきました。あの瓦れきの多さにはびっくりさせられたものです。いまだにその瓦れきの処理がなかなか進まない状況にありますが、そのことが先日のニュースで浮き彫りになりました。それによりますと、被災3県で全体のわずか5.2%しか処理が終わっておりません。これでは国が言っている2014年春までに処分を終わるという目標は到底困難でございます。

さきの12月議会の冒頭、樋渡市長は放射能を含まない瓦れきの受け入れの提案をしようとされましたが、その後取り下げられました。先日、野田総理が被災地以外の都道府県に対して広域処理の協力要請をされました。なかなか進まない瓦れき処理が問題視されている中で、今、樋渡市長はこの瓦れきの受け入れについて、どう思われるのか、改めてお伺いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。

実はきょう、議会終了後、直ちに牟田副知事が私のところにお見えになります。震災瓦れきの件で協議をしたいということで、非公式の協議をしたいというふうに思っております。そして、あしたの夕方ですかね、「朝ズバッ！」ですか、が私のところに取材に来て、ほか次々にマスコミ等々が私のところにお越しになるんですけれども、それと同じことを言おうと思っています。

確かに、野田総理が3月11日の式典の後の会見で、地方自治体に文書で要請をするということに関しては、私は一定の評価をしたいと思っています。しかしながら、だめです。100点満点のマイナス2万点です。なぜかと言えば、もともと去年の8月に成立をした災害処理

対策法ですね、震災瓦れきの対策特別措置法ですね、これがざる法ですもんね。何も書いてなかとですよ。そいけんが、総理は、その法に基づき文書で要請するてなとおぼってん、その寄って立つべき法がざる法ですもんね。何ですか、それはて。

そうではなくて、これは私は演告でも申し上げましたし、プレスにもいろんところでも申し上げていますが、やっぱり一番大事なのは、まず、これ長渕剛さんが、さきの報道ステーションでおっしゃいましたけれども、国会議員の人たち、見に行つてほしいと思いますよ、見に行つてほしい。なぜ我々がこういうふうに、これなんか言えば言うほど、私なんかもともと人気ありませんけど、人気落ちますよ。いや、あります。ですが、例えば、等議員さんであれ、朝長議員さん、等さん、上田議員さん、山口裕子さん、良広さん、陽輔さんですよ、ほかわかりませんが、行ったときに、何て思うかというぎ、やっぱり震災瓦れきこそが最大の復興・復旧の妨げになつとる、これ、チーム武雄の方も皆さんおっしゃいますもんね。ですので、国会議員が法整備をする前に1回見てきてくれて、そしたら、どういふことが必要なのかわかります。そうすれば、私はここからお願いですけれども、ぜひ広域処理の法律をつくつてほしいということですよ、広域処理の特別の法律をつくる。そして、これは地域主権とかという次元じゃありません。国は各自治体に割り当てんばいかんさ、割り当てんば。

ただ、一方で何でんかんでんこいばですよ、沖縄とか九州に持つてこいという話じゃなかとですよ。なかです。一番原理原則は被災3県で処理するのが大原則です。そして、次にせんばいかんとは、その周りです。東北でも、例えば、秋田とか北海道とか北関東とかが、やっぱりこれは好むと好まざるにかかわらず、そこの近隣の自治体としてどうしても処理できない分は対応せんばいかんです、こいは。そして、なおかつ、その同心円にあるところまで、やっぱり日本の応援する姿として、形として、構えとして法整備をやっぱりせんぎ、東北の皆さんたちはもう見捨てられたと思うとんさあですよ。

3月11日、私、行きました。行ったときに、瓦れきのまだ10メートル、裕子さん、そうでしたね、10メートルうず高く積まれとおとですよ。その中で生活をしよんさあわけですよ。ですので、それはもう地方自治体の善意に任せても無理です。私がそれで失敗しました。ですので、その失敗を踏まえて、国が法律のスキームをつくる、それで法に基づく計画を、実施計画をつくつて、何々県は何万トン、何々県は何千トンという割り当てをして、そこで各県の都道府県知事は基礎自治体に対して、あんたんとはこれだけ処理のでくっけん、こいだけせんばいかんていう指示なり要請ばせんばいかんと。そうしない限り、この震災瓦れきの処理というのは私は一向に進まんと思っています。そういう意味で、私は国の役割も大ですけど、県の役割も大です、県の役割も。これはね、やっぱりリスクば背負つてすんには、もう古川知事しかおらんですよ。

ですので、きょう副知事にもその旨言おうと思っていますので、国、県、そして基礎自治

体一体となって、やっぱり温かい気持ちで対応しようて、それと、黒岩議員さんの御質問でもありましたけれども、やっぱり信用されとらんです、国も、その基準についても。そいけん I A E A が、参考値じゃなくて、きちんと定めた8,000ベクレルならベクレル、僕はよかと思ひます。しかしね、環境省のパンフレットとか見ても、8,000ベクレル・パー・キロです、キログラムの説明、何もなかですもんね。そいが大体人体にどがん影響ばすつとかせんとかというとの、いっちょんなかですよ。もう環境省はだめです、三流官庁、解体せんば、もう。

ですので、そういうふうによりやっぱりそれは政治の力として、民主党はだらしなかつてんが、仕方なか、政権・与党です。ですので、そういう意味で環境省ば指導せんばいかんですよ。そういうことで、私としては、長くなりましたけれども、第一に法整備、そして、法に基づく実施計画、それと、これは機関委任事務とか法定受託事務、昔は言ひよつたです、別にして、地域に割り当てて、地方に割り当てて、それについて我々が温かい気持ちで対応する、応援するということが求められていると思ひます。

私の答弁はもう1個で最後にしますけれども、反対派の方たちも、きょういっばい見よんさあです。いっばい見えていますけど、妥協をしましょう、妥協を。もうこれ、きのうの報道ステーションでもコメンテーターの五十嵐さんがおっしゃっていました。我々も歩み寄ります。歩み寄る。しっかりちゃんとやります。反対派の人たちも、やっぱり震災の被災地のことを思うとんさあと思ひます。だから、全く放射線がゼロやけんとか、ストロンチウムとかいろいろありますけれども、全くだめ、そいけんイエスかノーか、黒か白の判断じゃなくて、自分たちはここまでいけるということ、ぜひ我々と一緒に話をして、オールジャパンで引き受けるということ、ぜひやっていきたいなと思ひております。

微力ですけれども、議会の応援をかりて、ぜひこれは全国にまた発信をしてまいりたいと、このように思ひております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

（モニター使用）私が昨年5月に行ったときの瓦れきの状況です。先ほどの市長の話でもありましたように、こういう山がたくさんあるということで、これは宮城県仙台市の若林区です。瓦れきの状況ですね。こんな状態で、今も恐らく残っておると思ひます。これが恐らくもう15メートルぐらいの高さになつてるかと思ひますけど、これからいろんなガスとかが出て、いろんなことで大変な状態になつております。

それで、この瓦れきの総数なんですけれども、被災した3県で瓦れきの処理の状況ということで、先日新聞等に載つておりました。これを簡単になんしますけれども、この2,252万8,000トン、合計ですね、3県の合計が2,252万8,000トンと聞いても、なかなかぴんとこな

いわけなんですけど、これを皆さん御存じの10トンダンプ、大型のダンプに10トン載せた場合、どのくらいの長さになるのかなということで、皆さん考えてみてもいいと思うんですけど、大体ダンプの長さが7メートル50ほどあります。それで、昨年チーム武雄としてバスで東北地方の岩手県陸前高田市まで行かれましたけれども、その距離が片道約1,700キロメートルなんですけど、その約10倍、1万6,900キロメートルという延長に、ダンプがずっとつながればなる量なんです。だから、陸前高田市までの5往復、その分の量がこの3県にあるということで、物すごい量なんだなというのがここでわかったんですけど、それで、そのうちのまだ800キロメートルぐらいしか処理が終わっていないと、延長にすればですね、そういう状況で、約6%という数字らしいです。

それで、これを被災3県で今の施設で処理するとなりますと、約20年近くかかるということをおっしゃっております。現場の近くに穴を掘って埋めて、その上に堤防がわりにしたらどうかというようなことも簡単に考えられるんですけど、なかなかそうもいかないところもありまして、現在、東京都だけが受け入れをされております。ほかの自治体では北海道、大阪府、また静岡県、そして先日は北九州市の市議会のほうが前向きな検討をされているということが明らかになりました。

その中で、やっぱり瓦れきイコール放射能というのが、どうしても皆さんの風評であるようでごさいます。それで、放射能に汚染されていない岩手県、宮城県の瓦れきは、県外の自治体が少量でも受け入れて痛みを分かち合わないと、この先の復興というのは厳しいものがあると思います。国の対応のまずさで国民の間に不信感が生まれ、住民の方が行政の話聞く耳を持たないと、よって、震災瓦れきの処理がおくれているという状況でごさいます。

先月18日ですね、陸前高田市の戸羽市長が北方公民館に来ていただいて講演をされました。聞かれた方も多いと思いますが、復興が延々と進まない原因に、国の制度の欠陥、政府の対応のまずさ等を挙げられております。

また、今回の震災が東京、大阪、名古屋で起こったとしたら、こんなにのんびりしとるんだろうかというようなことも言われており、地方軽視を強く批判されておりました。

そして、最後にこうもお話しされました。被災地のことを決して忘れないでくださいということを言って帰られましたけど、ちょっとこれで質問に移りますが、我々にできることは、これからも連続して支援を続けていくことだと思います。来年度、平成24年度も被災者支援費として870万円ほどの予算計上がなされております。次回のボランティア活動はいつごろ、どこへ考えておられるのか、お尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと額の話をご一般質問で申し上げるのはやめておきますけれども、今、私の思いは、

これはさきの議会でも答弁いたしましたけれども、気持ちとしては東北全体したかたですよ。しかし、やっぱり身の丈を考えた応援をしないと長く続かないという観点から、まず、チーム武雄、これ、議長さんも行かれましたけれども、一緒に行っていただきましたけれども、仙台市の若林区が第1、順不同で、第2が佐賀県庁が一生懸命やられておる宮城県の気仙沼市ですね、それと、こういう御縁がありまして、いろんな御縁がありまして、チーム武雄で行っていただいている、ケーブルワンの青木さんが見事な番組をつくっていただきましたけれども、そういうチーム武雄のみんなで行きました陸前高田市、この3地区を、3市3地域を重点的に御支援申し上げようと思っております。これは、議会の皆様方、市民の皆さん方も異論のないところだと思っております。

その中で、この前、戸羽市長さんの講演で、なるほどと思ったのは、今、大体、私も行ってわかりましたけれども、かなり復旧が進んでいるところ、進んでいないところありますけれども、陸前高田市で言えば、全体としては進んでいます。思った以上に進んでいます。人々の皆さんたちの顔、表情も物すごく明るいです。しかし、戸羽市長がおっしゃったのは、端的に言うと学習支援が必要になるだろうと。要するに、学校の先生がかなり多く亡くなっています。あるいは、塾に行きたくても、もう失業してお金がないといったところで、子どもたちの学習に対するモチベーション、意欲が低下していて、それが学習格差というんですか、成績格差につながりかねないということがありますので、我々として、ことしのどのタイミングで行くかというのは十分議会とも相談をさせていただきますけれども、もちろん以前チーム武雄で行かれたときの御支援に加えて、今回学習支援という、要するにわからないところを教えてあげるだけでも、十分子どもたちのモチベーションの維持につながると思うんですよね。そういう一番最新で望まれていることができればいいなというように思っています。

これは押しつけではだめです。ですので、よく被災地の皆さん方のお声に耳を澄ませて、我々としてできることの最大限のことをやりたいと、このように思っております。時期については、ことしの秋ごろをめどに考えておりますし、できますれば、1次、2次から5次くらいまでの、ずっと帰ってきて、また行って、帰ってきて、行ってというふうにしてまいりたいと思っております。そのときに、ぜひ議会の皆さんたちも全員やっぱり行ってほしいと思うんです。そうしないと、何がやっぱり必要なのかということについて、本当にわかりません。ですので、ぜひ一緒に行っていただくか、いろんな御視察もあられようと思っておりますので、ぜひ被災地に足を向けていきたいなというふうに思っています。そのときに、宮本栄八議員さんと一緒に行けと言われれば、私、一緒に行きますよ。もうこれはね、そういう判断抜きにして、ぜひ見てほしいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。本当、武雄市としても、どこよりもいち早く市民を挙げての被災地支援に取り組んだ実績もありますので、まだまだ復興には時間がかかります。先ほども言いましたが、被災地のことを決して忘れてしないで、これからも末永い支援を続けていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

そしたら、次の質問に移らせていただきます。

2つ目の質問ですけど、武雄北方インター工業団地の企業誘致についてでございます。

工業団地の造成工事が終わり、分譲を開始してはや5カ月が経過いたしました。担当部としましても、誘致活動に日々努力をされていることと思ひます。昨今の事情では厳しいところもありますが、その中で質問をさせていただきます。

県内に新産業集積エリアと言われる県に認定された工業団地は、武雄のほかに唐津、鳥栖、そして有田にあります。その中でも昨年10月から分譲している、この18ヘクタールの武雄北方インター工業団地は、ほかに類のない優遇制度がありますが、どのような制度があるのか、また、交通アクセス等についても、お尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

武雄北方インター工業団地につきましては、昨年の10月に分譲開始をいたしましたところでございます。先ほどございましたように、県との共同事業で、新産業集積エリアの1つとして、4つございますが、そのうち、唐津と武雄が今現在分譲開始をしているところでございます。

そういうことで、武雄北方インター工業団地は、何をセールスポイントとして分譲をやっているのかというような御質問だと思いますが、ちょっとパネルを使って御説明をしたいと思います。議員さん方のパワーポイントにはちょっと見劣りがするかも知れませんが、従来のパネルをもちまして御説明をさせていただきたいというふうに思ひます。

（パネルを示す）まずもって、この武雄北方インター工業団地につきましては、一番の売りはやはり交通アクセスでございます。武雄北方インターチェンジから車で2分という非常に近いところに、この工業団地がございます。加えまして、この工業団地につきましては、福岡空港、それから佐賀空港、長崎空港ということで、この3つの空港の1時間圏内にございます。また、重要港湾であります伊万里港とも20分で結ばれるというふうなことで、非常に交通条件がすぐれているということ、まず売りにしております。

（パネルを示す）それから、昨年の6月議会で制度化をしていただきました全国トップの優遇措置というふうなことを加えまして、県と市の支援ですね、これが最大で40億円というふうなことも、一つのセールスポイントにいたしております。

それから、分譲価格につきましては、平米当たり1万3,900円ということで、非常に手ごろの値段になっております。

それと、あと加えまして、この工業団地につきましては、インターから2分という、先ほどの条件言いましたけれども、九州にはこの一面18ヘクタールという、一面フラットで18ヘクタールを提供できる場所は、現在九州管内ではここがございます。

また、さらにここは地震が非常に少ないというふうなことで、非常に強固な地盤がありますというふうなこともセールスポイントに加えております。

そして、さらにこちらのほうにつきましては、団地から5キロ圏域の中に、非常に大型商業施設だとか、あるいは中高一貫校があるとか、あるいは総合病院があるとか、ゴルフ場があるとかというような、非常に暮らしやすい環境を備えているというふうなことで、今アピールをしているところでございます。

(パネルを示す) それと、昨年の6月議会で制度化をしたという市独自の優遇措置につきましては、御承知かもわかりませんが、全体で18ヘクタールございますが、この18ヘクタールの取得面積に応じまして、用地取得補助金ということで準備をいたしております。全部を一括で取得をしていただいたならば6億円、それから、10ヘクタール以上であれば3億円、5ヘクタール以上10ヘクタール未満ということであれば1億円ということで、用地取得に対しての支援をしていきたいというふうに考えております。

それから、操業に当たってのいろんな経費がありますけれども、工業用水道、あるいは上水道、電気料等いろいろございますけれども、こういったいろんなメニューに使い勝手がよいように、上限5,000万円を限度としての操業支援補助金というのものも一つ準備をいたしておりますし、あと、雇用をまず第一にこれは考えておりますが、雇用を1人当たりについて、雇用をしていただいた場合に1人につき50万円の雇用奨励金ということで、全体で限度額1億円という形で優遇措置を準備しているところでございます。

そういうことで、先ほどごらんいただきました交通アクセス等の好条件に加えて、武雄市独自、あるいは県の措置も加えまして、いろんな優遇措置が講じられますよということでアピールをしているところでございます。

以上でございます。

○議長(牟田勝浩君)

2番山口等議員

○2番(山口 等君)〔登壇〕

また、次の質問ですけれども、インフラ整備についてであります。そのうちの水に関しては、上水道、また工業用水等は近くまで整備されておりますが、もう1つの電気の供給、つまり電力の安定供給は可能なのでしょうか。

御存じのとおり、九電の原発、玄海発電所も4基すべて昨年12月25日の定期点検で運転停

止となっております。また、鹿児島島の川内原発の2基も停止した状態で、九州の原発6基すべてが停止状態で、現在、火力発電等の電力供給を行っている状態です。今のところ、まだ原発の再稼働も全く見通しが立っておりませんが、このような状況の中で、電力業者の九電に対しどのようなことを要求され、交渉、また確認されているのか、お伺いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

九電に関しては、私も上層部の皆さんたちに対して、工業団地については電力が命綱ですから、その安定確保をお願いしますということは申し上げていますし、現時点でそういった要請があれば、きちんと対応できる余力はありますという回答をいただいています。

しかしながら、私もいろんな企業経営者の方々とか団体の経営者の方々と話すと、やっぱりあいでしょうて、玄海原発のとまっとおけんが、もう電力少なかとでしょうていうふうに言んさあけん、これもある意味風評被害ですもんね。ですので、それがちょっとやっぱりセールスをする上ではしんどい思いを、理事も同じ考えだと思いますけれども、しているというのが実情であります。

重ねてでありますけれども、九州電力からは、きちんと電力は確保していますと、必要とあればきちんと電力は供給しますという確約はとっております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

これからの夏場の電力供給、電力の需要を考えますと、本当に安定供給できるのか、このような状況で新工業団地に来るような企業はあるのか、再度お尋ねをします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、いろんな引き合いがないわけじゃありませんけれども、ただ、これはちょっと相手がある話ですので、ここで確定的なことは申し上げませんが、ある企業等から進出をしたいという話が私のところに来ております。

その中で、幾つか言われましたけれども、1つは工業団地の価格はもっと安くできないかということ言われております。

もう1つ言われているのは、医療体制はどうだということでしたので、私が説明する前に、あ、樋渡さんてリコールば受けた人ねということ言われましたので、いろんな反対を、共産党の平野さんとか江原さんは記者会見までされてお先棒を担がれましたけれども、（発言する者あり）平野さん、答弁しています、私。ですので、そういう中で、皮肉だなと思いま

すね。これが企業が来て雇用を確保する上で、やっぱり医療、病院というのが最も大事だということ、そして、学校はどうですかということをおっしゃったので、中高一貫を含めて公立があって、うちは教育委員会がしっかりしていますので、小中もしっかりありますということ、それと、やっぱりあと住むところですね、住むところに当たっては、どういう商業圏ですかということもなる言われますので、それについて申し上げたところ、3月の末にその企業経営者と私、会います。非公式に会って、もう一回、2度目の交渉をします。そして、これは恐縮ですけども、相手がある話ですので、もしこれが順調に進めば、ことしの秋ごろに発表します。発表した上で行きたいというふうに思っております。

ただ、誤解なきように申し上げますと、やっぱり私は高槻市役所の部長だったときに関西大学の誘致をしました。したときにでも、あれも幾つか大学のあって、やっと決まった話なんです。ですので、市民の皆さんたちも、ぜひこれ御理解をいただきたいのは、やっぱり鉄砲は数ば打たんばいかんていうことです。ですので、これ、もし仮に失敗したにしても、次々と矢を放ち、鉄砲を放ちます。ですので、その時間的猶予をいただきたいということがあります。ですので、必ず3年内の中に結論を出します。出すので、その間の時間的猶予は絶対欲しいということは思っておりますので、ぜひ温かい目で見てください。

一方で、議員の皆様方にお願ひがあるのは、やっぱりこれは人的ネットワークですもんね。ですので、それは私は1人です。職員といっても390人しかいません。議員の皆さんたちはやっぱり幅広いネットワークをお持ちですので、ぜひこういう企業があるよとか、こういうところをしたほうがいいんじゃないかということについては、北川理事のところにも、私のところにも、副市長のところにも、お話を賜ればありがたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

分譲を開始してから5カ月ほどが経過しますが、担当部として誘致に向けてどのような努力をされているのか、お伺いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

今の誘致の体制、活動等についてでございますが、先ほど市長申し上げましたように、まづもって今、分譲開始を始めて5カ月でございます。とにかくここに18ヘクタールの団地があるよと、存在をしますよと、すぐ使えますよという、この情報を、とにかく広範囲に企業の方にお知らせをするということを念頭に置いて、今、活動をしております。

また、体制につきましても、現在企業立地課、私含め4人おります。これに加えて、昨年

の11月から兼務の職員を3人増員いたしました。それと、在京の武雄市のゆかりのある企業OBの方2名を企業誘致の特別顧問という形でお願いをいたしまして、情報収集、あるいは一緒に訪問等の活動に加わっていただいているところでございます。

現在、23年度につきましては、2月末現在ですけれども、昨年20社ほどぐらいしか回れなかったんですが、54社ほどの訪問、企業を回ることでございます。

それから、先ほど市長みずからトップに立つというふうなことで申しましたが、ことしの2月の日本経済新聞社の産業立地関係のシンポジウムにも市長みずから出向きまして、トップセールスを行ったところでもございますし、昨年の7月にも東京ビックサイトにおきます企業立地フェアにつきましても、市長みずからこの売り出しが間もなくかかるというふうなところでしたけれども、トップセールスをしていただいたところです。

また、東京モノレールを御存じかとは思いますが、東京モノレールに、毎日25万人が利用するモノレールの路線なんですけれども、ここに19編成の、6両車両がありますけれども、534本が行ったり来たりしております。この車両に広告を載せまして、武雄北方インター工業団地が、ここに分譲開始を始めましたということで、10月から広告も掲載をいたしておるところでございます。その反響もあります、そういった形で問い合わせ等もその後ふえておるところでございます。

以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

（モニター使用）若者の雇用の場として、市民は本当に大いにこの工業団地に期待をしております。まだ5カ月ほどしかたちませんが、このままの状態で行きますと、市、県に負担がかかるようなこととなります。今言われたように、東京のモノレールもPR、広告板等を掲げて努力もされております。厳しい状況下ではありますが、一日も早い企業誘致に結びつけ、樋渡市長が言われておりますメディカルリンクタウンを目指して、お互い頑張っていきましょう。

〔市長「はい」〕

それでは、次の質問に移らせていただきます。

3つ目の質問ですけれども、旧市民病院裏の柏岳の砂防事業についてでございます。

（モニター使用）旧市民病院北側の山を柏岳というんですけど、この山ですね。旧市民病院があったところの裏側の山です。ここの傾斜部分がちょっと斜めになったところなんですけれども、ここのところが土砂流出危険区域ということで、県が10年以上前に指定をされまして、砂防計画がなされました。そして、地権者に対して工事概要の説明があったんですけど、それで進められておった事業でございます。大半の方には用地買収にも応じていただき

ましたが、わずか一部の方が同意が得られずに、現在もそのまま休止という状態になっております。

平成12年に調査設計がされて、当時は市民病院等もあって、医療精密機械等の振動等の問題で一部計画変更もなされたんですが、一部の地権者の承諾が得られずに、まだ着手には至っておりません。これが柏岳の市民病院の近くですけど、この谷のところが溪流部ですけど、こここのところが土砂流出危険区域ということですね。

ちょっとこれがもとの市民病院になりますけど、昨年6月に新武雄病院も国道34号線のほうに移転しまして、現場付近での医療関係の諸問題がほとんどなくなっております。今が事業の再開のチャンスだと思うんですけども、地元においてもこの1年余り、何とかこの事業を再開したいという思いで、いろんなことをされております。特に川良区の区長さん、今、女性の中村区長さんなんですけど、みずから地権者の方に電話等もされまして、また、手紙等も2回ほど郵送されまして、いろんなお願いをされております。しかし、何らまだ進展がなく、このままの状態では安全・安心への不安が残るということで、地元で署名活動をされました。それで、川良区だけで約500名の方の同意が得られたところでございます。

この土砂災害がもし発生したとすれば、川良区はもちろんのこと、一部、これがおととしですね、平成22年7月の大雨のときの状況ですけど、ちょうど病院の裏側の道路です。これがほとんど川のように流れておりました。これもそうですね。病院の裏側です。もし、この土砂流出があったとすれば、このように約300世帯、ここがちょうど川良区と甘久区の境界なんですけど、川良区と甘久区ですね、合わせて約300世帯の家が影響するようなことになってくるかと思えます。

それで、地元としては、ぜひ事業の再開を強く願っておるところです。近年ではゲリラ的な豪雨というのが非常に見られるわけなんですけど、最近、去年おととしでしたかね、県道伊万里武雄線、赤穂山トンネルの手前のところの土砂崩落の災害も発生しておりますので、身近にこういう災害もあっております。

それで、質問に移りたいんですが、この事業は県が事業主体ですけども、これだけの民意が結集されたこともあります。武雄市としても、ぜひバックアップをしてほしいと思うんですが、そのあたりどうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは御指摘があったように、県営の事業なんです。したがって、我々はどんなにやりたいと思っても、その行政上、バックアップしかできないんですね。

それで、今、県に確認をしておりますけれども、最終的な手段は強制収用なんです。強制収用。土地収用法等に基づく強制収用しかないんですね。ですが、そこに至るまでもう

少しプロセスを踏んでくれということは県から言われています。その一方で、県からはこういう実例がないということですよ。ですが、きょうのNHKのニュースセブンでもありましたように、上越市で今、大規模な700メートルにもわたる地すべりのあれを見たときに、やっぱり先ほどの、去年おととしの水害の話もありましたので、ですので、私とすれば、これは県と見解が違いますけれども、強制収用辞さずとっておりますので、これはもう少し時間を、県と交渉いたしますので、最終的には私は、繰り返しになりますけれども、やっぱり命の安全あってこそですもんね。それは私益よりもやっぱり公益です。そういったことで、私も県に私自身の言葉で働きかけていきたいというふうに思っております。

防げるものは、やっぱり防ぎたいということは思っておりますので、ぜひそういう意味での地元の、今、中村区長さんを初めとする、そういったいろんな動きに関しては、私のほうからも感謝を申し上げたいと思っております。一緒になって、この事業が一刻でも早く着手ができるように頑張りたいなと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

地域の安全・安心のための砂防事業が、本当に一部の方の同意が得られなくて実現できないということは、本当にまことに残念でございます。この用地の強制収用というのは、本当に可能なんでしょうか、市長。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

法的には可能です。私も沖縄担当をしていたときに、現場で強制収用の担当もしたことはありますので可能なんですけど、ただ、日本の場合、我が国の場合には非常に強制収用に対してのハードルがやっぱり高いんですね。本当にそれしかもう手段はないのかということで、いわゆる最終的な手段になりますので、県の見解は、まだそこまで行っていないんじゃないかというのが県の見解のようです。しかしながら、先ほどそれだけの署名が集まったりとか、区の皆さんたちの、ここ結構傾斜もやっぱりあるんですよ。傾斜もちょっと議員の後ろで恐縮なんですけれども、（モニター使用）ここの部分が特に下に至るにつけて傾斜が結構きつくなりますので、そういう中でやっぱり一刻でも早い処理、対応はしなきゃいけないと。

ただ、県は前例がないということを言っています。お役所ですからね、県も。ですので、そこは我々の事業の必要性について県を説得していきたいなと思っております。これね、市の単独事業だったらよかったんですよ、ここが。ただ、そこが縦割りで、これはいい悪いは別にして、ここは県の事業になりますので、そこはぜひご理解をしていただきたいなと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

地元としましても、絶対必要な事業と考えます。県が事業主体であります。被害を最小限に食いとめるためにも、また、安全・安心の地域づくりのために、地域の方と一緒に努力していきたいと思っております。市といたしましても、この地権者の方へ連絡をとっていただき、約500名の方の気持ちを酌んでもらい、県と協力して事業再開に向けて努力をしてほしいと思っております。

それでは、次の質問に移らせていただきます。

最後の質問になりますけれども、交流促進のためのパークゴルフについてでございます。

武雄市には武雄スポーツクラブという組織がありますが、いろんなスポーツに取り組まれておると思っております。また、どのようなスポーツがあって、どのような方が登録され、また、人気のあるスポーツはどんなスポーツなのか、お尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

武雄スポーツクラブについてお答えを申し上げたいと思っておりますけれども、武雄スポーツクラブにつきましては、年度年度ごとに会員の募集をしております。特に今、サークルとして募集をしておりますのが、バドミントン、パークゴルフ、ミニテニス、ピンポン、リズムダンス、ボーリング、ゴルフ、スポーツ吹き矢、ウォーキングのものがありますし、同じ種目で2場所であっている部分含めると、11サークルという形になります。

23年度の会員数は501名であります。特に会員が多かったのが、リズムダンスが104名、これは男女の比が全然違って女性の方がほとんどであります。パークゴルフが85名、これは男の方が36名、女の方が49名、そして、ピンポン64名ということで、今、一番人気がというか、会員の方が多いものであります。

それから、PRでありますけれども、3月の市報と一緒に各戸配布をさせていただいておりますけれども、24年度の武雄スポーツクラブの会員募集という形でパンフレットを各戸に配布をして、今月の19日から募集を開始しておりますので、市民の皆さん方にぜひ御利用いただきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

（モニター使用）そのパークゴルフですが、高齢化社会となってきた今、庶民的な競

技として非常に人気が高いスポーツの一つであります。このパークゴルフも、平成15年に協会として発足して、ことしで10年になります。年々競技人口も増加しつつありますけれども、このパークゴルフ協会の組織について、少し簡単に説明させていただきます。

組織なんですけど、県内には武雄市と白石町、それと平成24年、ことしに佐賀市のほうで設立の予定でございます。九州管内を見ても、連合会と連絡協議会の2つの組織がありまして、北部九州連合会、これは長崎、佐賀、福岡3県ですね、のところが北部九州連合会という組織に入っております。それと、熊本の連合会、南九州連合会、沖縄の連合会、それと、連絡協議会として東九州地区の大分県の協議会が組織的に九州管内はあるということでございます。

それで、次にパークゴルフの施設なんですけれども、県内では皆さん御存じだと思うんですが、山内町のパークゴルフ場が1つあります。それと、ほかには県内にはなくて、佐賀市の嘉瀬川ダムの近くに今整備中でございます。これが平成26年春に完成予定で、54ホールという巨大な施設ができるような予定になっております。

それで、県外で見ても、長崎県の大島と対馬ですね、それと福岡県原鶴、直方、月隈、金隈、それとあと、熊本県、大分県、鹿児島県、沖縄県と、いろんなところでたくさん施設があって、皆さん楽しんでおられます。

以上のように、県外でも交流大会ということで、北部九州連合大会にも多く参加され、特に隣の長崎県の大島では月に1回のペースで大会も行われているようでございます。

現在、武雄スポーツクラブのホームグラウンドとしては、県の宇宙科学館の奥にあります保養村を利用されておりますが、最近ではイノシシの被害が非常に多く、施設の維持管理にも苦慮されておるところでございます。ここですね、ちょうど競技大会をされていたところなんですけど、ここが保養村の今のパークゴルフ場です。この網といいますか、このさくがイノシシを防ぐためのさくです。

そこで、今回、以前から相談をしておりました武雄河川事務所の所有であります朝日町の高橋にあります高橋排水機場の隣に自然観察園というのがございますけれども、そこを武雄河川事務所のほうにお借りするようなことになりました。この場をおかりしまして、武雄河川事務所の方にはお礼を申したいと思います。本当にありがとうございました。

ここが高橋の自然観察園ですね。ここがパークゴルフ場の予定地になると思います。このところですね。ここは、大体6,400平米ほどあって、ホールの数も18ホール、延長も約700メートルをとれるコースでございます。県内はもちろん、県外からも愛好者を迎えて競技大会等のイベントが可能になってくるわけなんですけど、それで、協会の方も非常に喜んでおられます。

それで、質問に入りますが、現在、宿泊をしての大会、北部九州連合大会にも多くの方が参加されております。武雄市から何名の方ぐらいが参加され、また、大会の規模として、ど

のくらいの方の参加者がおられるのか、そしてまた1人当たり金額的にどのくらいかかっておられるのか、お尋ねをいたします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

今言われました北部九州連合会の大会、これにつきましては、年に5回程度開催をされているというふうに聞いております。

全体的な参加者数は、130から200名程度ということであります。

宿泊の回数としては、武雄から参加されている皆さんは毎回参加をされておりますけれども、年2回程度の宿泊をされていると、参加人員の方は約20名というふうに聞いていますし、宿泊込みの費用として1万2,000円から1万3,000円程度がお一人様かかっているというふうに、内訳的には保険料とか宿泊代、それからバスの借り上げとか高速の使用料、燃料費、そういうものを含んで、1万2,000円から1万3,000円程度というふうに聞いております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

北部九州連合大会の規模になりますと、今言われたように130名から200名と、そして、1人頭1万3,000円ぐらいを使われておるということですが、全員が宿泊ということにはならんと思うんですが、1回当たり150万円から200万円ぐらいの経済効果が生まれるんじゃないかなと思います。

（モニター使用）それで、近年の武雄市の観光客数を見てみたいと思うんですが、平成12年から22年までの11年間の宿泊のお客さんの数を調べたんですけど、当初の12年からすれば、もう約半数ぐらいになってしまつとるんですね。40万人以上おったのが、今、20万人ちょっとというふうなことで、だんだんだんだん年々宿泊客は減っている状態です。

そして、日帰りの客の方を確認してみても、平成17年まではずっと下がってきたんですけど、これが18年になって、これ、がばいばあちゃんのロケ効果がありまして、ずっと平成21年までは右肩上がりですとずっと上がってきました。ところが、昨年度はまた落ちたというふうな状況でございます。

以上のような状況で、特に宿泊客は年々減少傾向にあります。今回の高橋パークゴルフ場が完成すれば、県外からも愛好者が来ていただき、大会の開催も年に数回は可能になってくるかと思えます。宿泊者増につながる観光面で大いに貢献できると思うんですが、担当部としてはどう思われますでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

パークゴルフ大会などの各スポーツを武雄市で開催するというふうなことにつきましては、宿泊増につながる、大いに経済効果をもたらすというふうに思っております。市としても、観光協会と連携しながら積極的に取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

宿泊数が伸び悩んでいる今日、このスポーツも高齢化社会で生きがいや健康維持という面で、これからますます盛んになる競技だと思います。このような大会誘致を有利に進めるために、何か助成制度はございますでしょうか、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

宿泊助成制度としましては、武雄市観光誘客対策補助金の制度があります。基本的に、市内で宿泊数が延べ30泊以上の団体及びあっせんした旅行業者のほうに助成をしております。助成額としましては、団体の場合、基本額1万円と、延べ宿泊数に300円を乗じた額の合計、上限を5万円としております。それから、旅行業者につきましては、基本額1万円と、延べ宿泊数に100円を乗じた額の合計、上限は5万円というふうなことでなっております。

また、大会等の誘致につきましては、主催者、事務局ですけれども、直接助成する制度を23年度より新たに設けて、最高50万円まで助成することができます。これは、50人以上の宿泊というふうなことでなっております。延べ宿泊数が50から99泊までは5万円、それから、199泊までが10万円、299泊までが20万円、399泊までが30万円、499泊までが40万円、500泊以上につきましては50万円を助成するなどの宿泊助成制度があります。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

宿泊の助成制度も結構あるそうでございます。パークゴルフ協会としましても、この高橋自然観察園のパークゴルフ場も、4月末には開設記念の大会をやるような運びで考えておられます。ぜひこの制度を活用して進めていきたいと思っております。

なお、大会は、ほとんど平日に開催されておりますので、宿泊施設の方にも協力を願って、宿泊増に向けて努力していきたいと思っております。

そんな中で、このパークゴルフ場は、地域の方のコミュニケーションを図る最適なスポーツでございます。この会場は、パークゴルフ協会で維持していくこととなりますが、この場所も武雄河川事務所の特段の御配慮により使用することができますが、長期的には利用する

ことにはいかないところもございます。それで、将来的にはぜひ正式な公認コースがとれるような施設を完備していただいて、武雄市民の福祉の維持向上に努めていってほしいと思います。

以上をもちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（牟田勝浩君）

以上で2番山口等議員の質問を終了させていただきます。